

机上进行自分ですばやく片付けるための支援 —ピカピカ大作戦—

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象 小学生

- 課題
 - ・周囲に興味をひくものがあると、目の前の課題をおざなりにしてしまう。忘れっぽい。
 - ・指示待ちになることが多く、人に頼ることが多い。
 - ・整理整頓が苦手である。
- 強み
 - ・好きなキャラクターになりきって楽しむなど、イメージが豊かである。
 - ・カードゲームやじゃんけんなどのゲームの要素を好み、勝敗を受け入れることができる。
 - ・前向きに考えることができる。
 - ・ルーティンが身に付くと、活動が続きやすい。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元（題材）名
自立活動「自分ですばやく机の上を片付けよう」

目標（本実践終了時の期待する子供の姿）
学習で使った学習用具や道具を、自ら進んですばやく片付けることができる。

指導仮説
整理整頓にゲームの要素を取り入れ、取り組んでいく。達成できた成果を「がんばり表」を掲示して視覚的にとらえさせ、児童自身に達成感を味わわせれば、自ら継続して整理整頓をすることができるであろう。

児童生徒の実態

3

指導仮説の具体的な内容と評価内容・方法

◆指導仮説の具体的な内容

学習後、「終わります。」という合図とともにタイマーを起動する。2分以内に机上进行をきれいにし、学習道具を元に戻す。児童の机上进行に学習した道具がなくなった状態になったら、児童自身がタイマーを止める。目標が達成できたか一緒に確認し、できていたら掲示したがんばり表にお気に入りのシールを貼る。

◆評価方法（どのような方法で何を評価するか）

2分間という制限時間を守り、正しく元の位置に戻せていることが確認できれば、表にシールを貼る。
(がんばり表・行動観察)

4

指導の実際①



じゅぎょうが すんで つくえの
うえを 2分で きれいに する。

できたら「がんばり表」に
気に入ったシールを貼る。

自分の生活を振り返り、何を頑張りたいか、友達や教師の意見を取り入れながら自分の目標を決めた。

5

指導の実際②



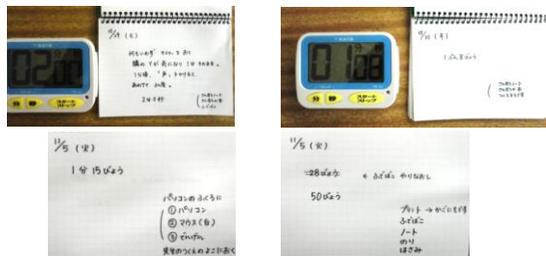
「2分間を計るタイマー」
スタートは教師が押し、片付けが済んだら児童が止める。

「かかった時間」「何を片付けたか」など気付きをノートに書く。

タイマーと記録するノートを用意した。筆箱の中身がそろっていないかったり、元の場所に戻っていない場合、もう一度タイマーを動かした。

6

指導の実際③



片付けに要した時間だけでなく、何を片付けたのか、その時の気づきを記録することで、児童の様子を振り返ったり、できたことを褒めたりする材料になった。

指導の実際④

シールが20個集まった！



自分から進んで、2枚目、3枚目に挑戦中。

他の児童がタイマーを持ち、一緒に片付けに取り組んでいる。本児童の励ましとなっている。

がんばり表と友達の肯定的な声かけで、学習後の片付けをすばやく行う意欲が増した。

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけないと、片付けをしなくて次の行動に移ってしまう。 ・道具箱に鉛筆を片付けることなど、片付けるように促しても、きちんと元に戻すことができない。 ・交流学級では、誰かが片付けてくれるのを待ち、やってもらうのが当たり前になっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に本人の片付けスイッチが入り、2分以内に片付けることができた。 ・教師の声かけを待つことなく、自ら動くことができつつある。 ・教師と共に確認することで、元の場所に正しく片付けることができるようになった。 ・交流学級においても、自ら友達と一緒に片付ける姿が見られた。 ・休憩後に自分が遊んだものを片付ける時間が短くなった。帰りの準備も早くなった。 ・他の児童も同じように自分たちの目標を決めて頑張る中で、自然と関わったり、よい意味で刺激し合ったりする姿が見られた。

評価

- 児童生徒は目標を達成したか。
 - ・十分達成した。
- 判断の理由・根拠
 - ・20回中20回成功した。自分が考えて決めた目標に向かって頑張った成果が「がんばり表」を通してみたことで、本人のやる気につながり、取り組み後も「自分からやりたい。」と予期していなかった継続が見られた。
 - ・学習後の片付けだけでなく、休憩後の片付けや、帰りの準備などにも広がりが見られた。

指導仮説の検証

●指導の成果
制限時間内に終わらせる、シールを集めるというゲーム的要素を活動として組み込むことで、自ら積極的に行動することができた。

また、頑張っている成果を表にして掲示したことで、教師だけでなく、児童同士での声かけがあり、より成果が上がった。

●課題

- ・シールを集めたことを褒めるだけでなく、片付けることの有用性を感じさせる場面を仕組む必要があった。
- ・教師が毎回タイマーを用意していたので、自分で意識して準備するように仕向ける工夫が必要である。また、自主的に片付けを行った時には意図的に価値付けを行い、片付けのよさを実感させることが必要であった。

指導の改善案

●成果・課題を踏まえた改善案

- ・片付けをしなかった時と、片付けた時の気持ちの変容に気付かせたり、クラス全体で振り返ったりするなどして、片付けることの有用性を感じさせる。
- ・自主的な片付けを褒めることで、片付けの習慣化をめがす。
- ・頑張ったことを他の児童と共有する時間を設け、できた喜びを自信につなげられるようにする。